

様式1		令和6年度 清瀬市立清瀬第六小学校		学校評価計画	
学校の教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動			
よく考え進んで行動する子供 仲良く力を合わせる子供 健康で心豊かな子供		〇「人権尊重の精神を」を基調とした思考・判断・実践する教育			
目指す学校像(ビジョン)		〇学びを追究し、知的欲求が旺盛な教育 〇自他の健康や体力向上を図る教育 〇将来にわたって地域に貢献する教育			
【目指す学校像】 自己肯定感を高めさせ、次代を担う子供を育てる学校 【目指す児童・生徒像】 自分を見つめ、自分を肯定的に考えることのできる子供 【目指す教師像】 常に子供を中心にした指導を行う教師		・「自他のよさ」に気付き、人格を大切にできる教育 ・社会に存在する差別に気付き、許さず、解消しようとする教育 ・児童自らの思考を認識させる教育 ・体力を身体的・精神的、行動・防衛に分類し系統的に行う教育 ・地域の人々と積極的に関わる教育			
前年度までの学校経営上の成果と課題					
柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	学びを追究し、知的欲求が旺盛な児童を育成する	児童一人一人の課題に応じた学習活動を展開する。	特別支援教育の考え方を生かした分かりやすい授業を行う。	4 年6回以上管理職による授業観察を行い、指導・助言	4 90%以上の児童が、自己の課題を認識し自ら学び方を選択
				3 年4回以上管理職による授業観察を行い、指導・助言	3 80%以上の児童が、自己の課題を認識し自ら学び方を選択
		学習習慣を確立し、既習の学習内容の定着を図る。	既習の学習内容を確認した上で、新たな内容の指導を行うとともに、ICT機器の活用も図りながら家庭に働きかけ、家庭学習の充実も図る。	2 年2回以上管理職による授業かんさを行い、指導・助言	2 70%以上の児童が、自己の課題を認識し自ら学び方を選択
				1 年2回未満管理職による観察授業を行い、指導・助言	1 70%未満の児童が、自己の課題を認識し自ら学び方を選択
豊かな心の育成	「人権尊重の精神」を基調とした思考・判断・実践できる児童を育成する。	人権尊重の精神に基づき、自己肯定感・自己有用感の高い児童を育成する。	縦割り班活動や学級活動で班や集団で活動する機会を計画的に実施し、互いを認め合い、高め合う力を育成する。	4 教員の自己評価で90%以上	4 80%以上の保護者が、ICTを活用した家庭の有用性も理解
				3 教員の自己評価で80%以上	3 70%以上の保護者が、ICTを活用した家庭の有用性も理解
		教育活動全体を通して、生命尊重の精神を育成する。	いじめ調査を年間3回以上実施し、実態を把握し早期発見・早期対応につとめる。	2 教員の自己評価で60%以上	2 60%以上の保護者が、ICTを活用した家庭の有用性も理解
				1 教員の自己評価で60%未満	1 60%未満の保護者が、ICTを活用した家庭の有用性も理解
健やかな体の育成	自他の健康について考え、行動し生涯にわたって活き活きと活動できる児童を育成する。	運動の特性に親しみ、生涯にわたって体力向上を図ろうとする児童を育成する。	東京都統一体力テスト結果を分析するとともに、体育部を中心とした教員による模範授業を行い改善した授業を展開する。	4 教員の自己評価で90%以上	4 異年齢活動で互いに認め合うことができた実感した児童(90%以上)
				3 教員の自己評価で80%以上	3 異年齢活動で互いに認め合うことができた実感した児童(80%以上)
		自らの健康について自己管理しようとする児童を育成する。		2 教員の自己評価で60%以上	2 異年齢活動で互いに認め合うことができた実感した児童(60%以上)
				1 教員の自己評価で60%未満	1 異年齢活動で互いに認め合うことができた実感した児童(60%未満)
特別支援教育の充実	児童一人一人の課題の解決に向けた指導を展開し、自己の特性を社会に生かす指導を育成する。	特別支援教育の理念を発達の段階に応じて児童に理解させ、日々生活の中で個性を生かせる児童を育成する。	全教科・領域を通して、自然の摂理・偉人の生き方について取り上げ、個性を生かした生き方を考えさせる。	4 全学年全学級で実施	4 児童の満足度評価A(児童の80%以上)
				3 実施率80%以上	3 児童の満足度評価B(児童の50%以上～80%未満)
		児童一人一人に応じた学習活動を展開し個性の伸長を図る。	教員一人一人が、特別支援教育について理解し、その上で児童一人一人の特性に応じた指導を行う。	2 実施率60%以上	2 児童の満足度評価C(児童の30%以上～50%未満)
				1 実施率60%未満	1 児童の満足度評価D(児童の30%未満)
本校の特色	地域の伝統や文化を理解・尊重し、愛着と誇りをもつ指導を行い、清瀬に愛着と誇りをもつ児童を育成する。	地域資源等を活用した学習を実施し、次代を担う児童の育成を図る。	地域人材を活用した体験や問題解決学習を実施し、多面的・多角的な見方や考え方の育成を図る。	4 年3回以上、模範授業の校内公開	4 全教員が、体育の授業を改善
				3 年2回以上、模範授業の校内公開	3 90%以上の教員が、体育の授業改善
		コミュニティースクールとして、地域に生きる一員としての自覚を育て、将来にわたって地域に貢献しようとする児童を育成する。	学校地域支援本部など地域社会で学校を支えている人々に着目し、全教育活動の中で、地域社会に生きる一員としての自覚を高めさせる。	2 年1回以上、模範授業の校内公開	2 70%以上の教員が、体育の授業改善
				1 模範授業の校内公開の未実施	1 70%未満の教員が、体育の授業改善
				4 年6回以上、栄養士による食育指導	4 全児童が、食から自分の健康について思考
				3 年5回以上、栄養士による食育指導	3 70%以上の児童が、食から自分の健康について思考
				2 年3回以上、栄養士による食育指導	2 60%以上の児童が、食から自分の健康について思考
				1 年3回未満、栄養士による食育指導	1 60%未満の児童が、食から自分の健康について思考
				4 全教員が年4回以上、地域の歴史・人に視点を当てた生き方を取り上げた授業	4 全児童が、自分の個性を生かした生活について思考
				3 80%以上の教員が年4回以上、地域の歴史・人に視点を当てた生き方を取り上げた授業	3 70%以上の児童が、自分の個性を生かした生活について思考
				2 60%以上の教員が年4回以上、地域の歴史・人に視点を当てた生き方を取り上げた授業	2 60%以上の児童が、自分の個性を生かした生活について思考
				1 60%未満の教員が年4回以上、地域の歴史・人に視点を当てた生き方を取り上げた授業	1 60%未満の児童が、自分の個性を生かした生活について思考
				4 全教員が、特別支援教育の理解に基づいた授業	4 全児童が、授業で自分の課題(自らの強みも含め)を解決・伸長
				3 90%以上の教員が、特別支援教育の理解に基づいた授業	3 90%以上の児童が、授業で自分の課題(自らの強みも含め)を解決・伸長
				2 70%以上の教員が、特別支援教育の理解に基づいた授業	2 70%以上の児童が、授業で自分の課題(自らの強みも含め)を解決・伸長
				1 70%未満の教員が、特別支援教育の理解に基づいた授業	1 70%未満の児童が、授業で自分の課題(自らの強みも含め)を解決・伸長
				4 教員の自己評価で90%以上	4 児童の満足度評価A(児童の80%以上)
				3 教員の自己評価で80%以上	3 児童の満足度評価B(児童の50%以上～80%未満)
				2 教員の自己評価で60%以上	2 児童の満足度評価C(児童の30%以上～50%未満)
				1 教員の自己評価で60%未満	1 児童の満足度評価D(児童の30%未満)
				4 全学級で、将来の地域の様子を想像する学習活動を展開	4 全児童が、将来地域に貢献している自分を想起
				3 90%以上の学級で、将来の地域の様子を想像する学習活動を展開	3 90%以上の児童が、将来地域に貢献している自分を想起
				2 80%以上の学級で、将来の地域の様子を想像する学習活動を展開	2 80%以上の児童が、将来地域に貢献している自分を想起
				1 80%未満の学級で、将来の地域の様子を想像する学習活動を展開	1 80%未満の児童が、将来地域に貢献している自分を想起